

21-00

1820  
69

今日の教訓

268  
192

目次

○ 金光教年表 (明治十六年以後)

- 十六年 十月十日教祖金光大陣神上り給ふ
- 十八年 六月十三日備中分局所屬神道金光教會を組織す
- 二十年 十一月分局の所屬を離れ神道本局六等直轄教會となる
- 二十三年 八月四等直轄教會に進む
- 二十四年 十月三等直轄教會に進む
- 二十六年 十二月二十日金光四神君御縁由
- 二十七年 十二月一日金光教學問所創立

○金光教年表

(明治十六年以後)

十六年 十月十日教祖金光大神神上り給ふ

十八年 六月十三日備中分局所屬神道金光教會を組織す

二十年 十一月分局の所屬を離れ神道本局六等直轄教會となる

二十三年 八月四等直轄教會に進む

二十四年 十月三等直轄教會に進む

二十六年 十二月二十日金光四神君御歸幽

二十七年 十二月一日金光教學問所創立

明治  
44. 8. 3  
丙寅

三十年 五月一日金光教學問所を金光中學と改稱す

三十一年 四月一等直轄教會に進む

三十二年 七月廿二日獨立請願書を其筋へ提出○四月令總會を東京に創設す

三十三年 六月十六日金光教別派獨立○六月十八日管長御就職○六月廿五日佐藤

教正金光教顧問を囑託せらる○十月十日教祖大祭奉仕従來は陰曆九月十日を以て奉仕するの慣例なりしを改正して定例とせらる

三十四年 一月十三日初て金光教議會召集○二月金光中學給費生の規定を設く○

九月十日金光中學講習科を設け教師を養成す

三十五年 四月一日本部内に典樂部を設く○六月全國巡教開始佐藤近藤畑三教正

十六日を以て巡教發程○九月岡山縣下虎列刺病蔓延につき特に流行地を巡教

○全月廿三日大教主の稱号認可○十月十日教祖二十年紀念大祭奉仕

三十六年 一月全國巡教を開始し十月に亘る○四月自今諸令達を教報に掲載す

三十七年 二月巡教師速成講習會を開く○三月二十日巡教師を置く同時に國威宣揚のため全國巡教開始○十月金光中學改築成る

三十八年 二月十日金光中學を金光中學校と改稱すると共に文部省認可學校となる○二月廿二日講習科を擴張して金光教々義講究所を設く○八月第一回全國

教會長講習會開催

三十九年 七月金光教青年會發會式を舉ぐ○十二月十七日教義講究所規則を改正

し修徳殿設置の制を定む

四十年 二月十五日修徳殿開かる○全月二十日韓國布教管理所を置く○三月廿

六日金光正神君御歸幽○四月十日佐藤教監新任と共に規箴宣言發表○六月廿

七日東京横濱特別布教規定せらる○十月九日金光教布教興學基本財團發表式

○十月十日教祖廿五年紀念大祭奉仕

四十二年 六月十六日獨立十年紀念祭奉仕管長閣下へ頌徳狀を奉呈す

四十三年 一月第二回全國教會長講習會開催○四月十二日大教正白神新一郎師歸

幽○八月二日金光教大教會所建築發表式

四十四年 四月六日修徳殿建築落成に付移轉式舉行

今日の教訓

○忝なき夕

嬉しかりし今日もいつじか亦暮ちかく野に立つ人の影やうやく  
消えて夕日は静けく紫の雲に没れましけり家には懐かしき妻の  
吾が歸りを待つらん實にも外に働く人の心は半ば家に残り世  
の良妻たち満腔の愛情を以てこの疲れたる人を迎へよ終日の業  
務に綿の如く疲れたる身を癒すものは美き酒にあらず佳き肴に  
あらず霽々たる家庭の和樂なり心地よく照せる燈火の下満足に  
立ちたる老人と小兒と妻との輝ける顔を見渡したる時いかなる

二  
疲れも癒えずといふことなし、たとへ百万の財産あらんとも、この和樂を缺がば貧しき人にも劣り、裏長屋に細生活すとも、この和樂だにあらば富みたる人にも勝れり。

和合 信心は家内に不和のなきが元なり (神訓)

家内中、和合の心に信心の力をこめて子孫繁昌家運長久の繩を

よれ (御理解)

團樂なる家庭に優る樂園なし

我家は地球上最も幸福なる一部なり (モントガメリー)

純潔なる愛情家に充つれば四邊到る處として歡喜快樂ならざるはなし (クーパー)

笑ふ門には福、泣面には蜂、怒る家には鬼が棲む

不和の家庭は貧乏神の巢窟 (英國俚言)

家内和合の中心は主婦にありて、よく舅姑に孝へざれば和せず、よく良人に順はざれば和せず、よく舅姑に孝へ、よく良人に順ふには學問の外技藝の外婦徳を要す、賢母良妻とは令徳ありて、よく一家和合の中心をなすの謂なり。

良妻 此の道の信心は第一に女子に教へよ、女子は一家を保つ竈の柱

なればなり (御理解)

信仰と誠實ある婦人はその家の精神なり

家貧しとも良妻あらば憂ふるに足らず

心の芳しき婦人は良人の品行をして自ら貴からしむ

美人ならずとも才徳ある婦人は家を飾るに足る

良妻と健康とは人間無上の財寶なり (英國俚言)

更に一家の和合は善良なる子孫を得るによりて、一層に光彩の添ふものなり。子孫善良ならざれば常に涙の種となり風波の種となる。而して子女を養育するの任務亦主として母にあり、女子は實に子を産み子を育つるを以て最大の天職とす。

産育 懷妊の時腹帯をするより心に眞の帯をせよ (神訓)

子を産むは女の大厄にあらずして大役子を産まぬ女こそ眞の大厄なれ (御理解)

小兒の運命は常にその母の作る處なり (ナポレオン)

子を生みこれを育つるは母の役目なれども長ずるに従うて父に似るものなれば其の人に成ると成らざるとは亦父の責任に歸す。要するに夫婦の第一義は善良なる子孫を得るにあり。

父母 眞心の道を迷はず失はず末の末まで教へ傳へよ (神訓)

蟹の子は親を見習ひて横に歩く (御理解)

子を養ふ親は多けれど子を育つる親は誠に少く、財産を譲る親はあれども精神を譲る親は甚だ稀なり

兒童は父母の行爲を映す鏡なり (スベンサー)

父の徳行は子の爲に最大の遺産なり (英國俚言)

元來男子と女子とは身体の組織を異にし従つて主るべき役目も自ら一様ならずと雖も尊卑の別を以て論ずべきものにあらず男女天職の異なる所は社會を成すの始め道徳を生むの根本にして世間往々にして聞く女子の獨立の如きは自然に反したる不祥の聲なり則ち互ひに相犯し難き天職を奉じて男女相接り相結びて夫婦を成し人の道初めて完きを致す夫婦の結びは神の契りにして例へば紅白の桃の接分の如し共に一つ臺木の上に癒着きて妻は夫によりて生き夫は妻によりて存ふべきもの夫婦相愛して偕老を契り異体同心の實を擧ぐるは神の最も喜び給ふ所なり夫婦相結ぶも相信せず相愛するも道を以てせず近きに狎れて別を置かず終に倫道を破り家庭を紊して祖先を穢し子孫に殃し而も尙ほ耻ぢざるもの世にあるは慨くべきことならずや。

夫婦の中睦じきは家内和合の初めなれどもその道を以てせざれば家内不和合の初めとなる (御理解)

### 結婚

縁談に相性を改め見合より信の心を見合よ (神訓)

家柄人筋を改めるより互に人情がらを改めよ (全)

金錢の爲に結婚するものより惡きはなく戀愛の爲に結婚するものより愚なるはなし (ジョンソン)

夫婦の間は近からず遠からざれ (佐藤先生)

男は外に汗を絞り女は内に智慧を絞る



夫の賢愚は妻を見れば知らる

悪しき妻は厄難の一つ (獨國俚言)

才能なき夫は屋根なき家の如し (西國俚言)

男子の名譽は主として勇氣に發し女子の名譽は主として貞操

に存す (スベクテーター)

よき夫婦たらんとせば夫は聾たれ女は盲たれ (アルホンソ一世)

良馬は決して蹉かず良妻は決して不平を鳴さず (英國俚言)

婦徳につきては一言にして盡すべからざるも男子に比すれば女

子は大概細心なり細心は女子の美點なれども過つ時は狹量に陥

り稍もすれば心配と苦痛の種を醸し或は腹を立て怨念をもやす

ことさへあり又近き慎みなく遠き慮りなくして虚榮に驅られ易

く延いて墮落の基をなす殊に修養足らざる婦人は多言饒舌にし

て好んで己を矜り他を陥し他の短を發き流言を作すの癖あり是

等は皆徳を傷け家を破るの本なれば深く自ら内に省みて外に慎

むべく男子も亦以て誠むべきかな

舌禍 心で憎んで口で愛すなよ (神訓)

禍は天より降らず己の口より湧く

知るものは言はず言ふものは知らず (老子)

沈黙は婦人最良の裝飾なり (羅甸俚言)

思慮なき人は常に談ず (ホーマー)

刀傷は癒ゆれども舌傷は癒ゆず (土國俚言)

多言は多失の種 (西國俚言)

沈黙せよ否らざれば價あることを言へ (獨國俚言)

復讐 人を恕せば神も亦己を恕さる (御理解)

敵のためにも天地に御詫申してやれ (全)

己を恕す如く人を恕し人を責むる如く己を責めよ

復讐を喜ぶものは淺智小量の人なり (ジュヴェナル)

怨に報ゆるに徳を以てせよ (老子)

慢心 まん心が大げがのもとなり (神訓)

傲慢は愚人に必ず附隨せる惡徳なり (ホープ)

他を輕視するものほど輕視すべきものはなし

男女共に虚榮に驅らるゝもの世に多きは誠實の心を缺ぐが故に

してこれを養ふには只眞の信心あらんのみ心に正直誠實あらば

夫婦は共に親しみ一家は共に樂しむ社會と交はりて信を失ふこ

となく友と交はりて味をたがふることなし。

誠實 口に眞を語りつゝ心に眞のなき事 (神誠)

蔭と日なたの心を持つなよ (神訓)

正直は最もよき方便なり (ワシントン)

黄金は地金を露はすに従うて貴し

惡人は非を飾るも善人はこれを改む (ジョンソン)

虚榮に驅らるゝ女は石油を浴びて火に赴くが如し  
交際は社會をなす所以にして、交際なきものは生存の意義なきものなり昔は交際は多く男子に限られしが今は女子にも必要なる時代となれり而して交際は信義を以て本とし信義を以て交際する所則ち醇厚俗をなす。

交際

天が下に他人といふことは無きものぞ (神訓)

愛身愛家の心を以て人に交はるべし (神誠正傳)

交際は禮に始まり信に終る

才能を争ひ功業を争ひ権力を争ひ意義を争ふは小人の常

詐りの和睦は戦よりも尙恐し

自ら信するものは人を疑はず人を疑ふものは自らも信せず骨肉も亦仇敵となる

珍客も長きに過ぐれば厭はる (ハンス、アンダーセン)

男子と女子とを問はず人には友人を要す慰安の爲に、艱難相救ふ爲に、相勵まし相誠むる爲に友人を要す眞實なる友に至りては骨肉の兄弟にも勝ることあり。

朋友

馬は馬連、牛は牛連信心家には信心づれ (御理解)

信心なき人に交はるには心を許すな徳を落すぞ (全)

甘言するものは友にあらず

君子は義によつて交はり小人は利を見て集る

眞友なき人は孤獨の境涯にあるものなり (ペーコン)

人生交友の快樂ほご貴重なる快樂なし (ジョンソン)

艱難に逢うて始めて眞友を知る (シセロ)

朋友の響應には徐かに行き危難には速かに行け (チロ)

諫言

人を諫むるは誠餘りて言足らざるがよし  
私かに友を諫めて公にこれを譽めよ (ソロン)

追々社會の進運に伴ふ生存競争の結果は、孤獨貧窮の民益々多か

らんとす、これを救済し感化して共に聖代の徳澤に浴せんには、一

重に國民の同情心に俟つの外なく、かの公益慈善事業はこの同情

心より發する、暖衣飽食する毎に窮民を思ひ子女の愛らしき生立を

見るにつけて孤兒を念ふは人の至情にして、分けて婦人の慈悲博

愛に富めるは一層の美を感せしむ。

同情

我身の苦難を知らぬ事 (神誠)

人の身が大事か我身が大事か人も我身も皆人 (神訓)

十人を助ければ十人の神百人を助ければ百人の神 (御理解)

恩を賣ること勿れ賣らば却つて怨を受く  
善を積みて報を天に望む者は福なく恩を施して報を人に求む

るものは徳なし

慈善の看板の裏には恐るべき罪惡を發見することあり

かくて善良なる夫婦は、妻を信するが故に家を托して内顧の憂ひ

なく夫を信するが故に身を任せて將來を危ます且には夫を送るを惜しみ夕には妻に迎へらるゝを樂しみつゝ心を合せて老親に孝へ方を集めて幼少を育つ嗚呼亦樂しからずや。

鳥は友を呼びて宿に急ぎ雀は聲を寂めて簾に隠れ明星微かに色彩りて黄昏近きぬ外に働かし人は終日の疲勞を洗ひ清めんとて歸り來り内に守りし人は今日よくその信託に酬ひ得たるか任務を果し得たるか夕の整頓は已に終りたるか夕食の支度は整ひたるか火は點せられたるか第一に神殿靈殿の廣前はいかん暮の燈明輝かざれば神徳こもらざるが如き心地す。

「且には一夜の御禮夕には一日の御禮」家族一同神前に禮し靈前に

に拜して嬉しく夕食の膳に向ふ朝餉は急ぐが習ひ晝食は早く切上ぐるが常夕食に至りては一日の慰勞なれば家相應の支度をなして悠に長く落付きて食くべきもの分を越ゆるは奢りなれども儉に托して態と膳を淋しくし養を疎かにするが如きは賞むべきことにあらず且つや禁じ難き身は盃を添ふるも穴勝に悪しからず一盞二盞に陶然として一日を忘るゝ程は實にや酒は天下の美祿患を掃ふ玉帚たらん。

夕食は一日の中最も樂しき時間なり心常に感謝に充つれば見るもの聞くものとして愉快ならざるなく歡喜湧きて堂に溢るゝの間一日の經驗と見聞とは斷れざる糸の如く次より次に語られて

教訓となり、智識となり、趣味となり、娛樂となる、勿論信心家の一言一句は信心に染められ修養に結ばるゝぞ嬉しき。

夕食 心おきなく一日を送りたる者は頂く食悉く美し (御理解)

大酒大食するは絶食の元になるぞ (神訓)

有難く頂かるゝが第一の滋養 (御理解)

人の思ふ如く貴きものならば美味滋養物に飽く金持には病人

のないはづ (全)

病は口より入り禍は口より出づ (俚言)

飽食する毎に貧人を想起せよ (シンゲールズ)

神と本心とはいつも吾人の行爲を監視す (英國俚言)

夕食終らば教會所の近き人は打連れて参禮を遂げ謹嚴なる御理解に心の塵を拂ふべし、美酒佳肴は身の養ひとなれども心の養ひにはならじ、美味滋養に飽く人の却つて病苦に親しむは則ち心の養ひ足らざればなり、夕食に明日の體を養ふ人は亦心をひそめて徳を脩めざる可んや、教會所の遠きものは家の神前に家族打集ひて祈念をなし、教苑を開く、信者の群れる地方にては數戸申合せて輪次に小教會を開きなば一層に尊からん、道を尋ね教を研むるは本教信者の最も大切なる信仰なり。

教會 眞の道に居ながら眞の道を履ぬ事 (神誠)

野の末山の谷にても我教を聞傳へて難有しと感ずる時は一切

の祈念成就す (御理解)

時の信心よりは常の信心時の追肥よりは常の地肥 (全)

折角参拜しながら教を頂かずして歸るものは市に行きて買物を忘れたると同然 (全)

神様は家にもござる教は参拜せねば頂かれぬ (全)

教を聴くばかりにては食滞するぞ (全)

地方により家によりて夜業に従ふもの多かれど生計の許さん限りはこれを廢して専ら修養と慰安とに用ひたきものなり教會に参拜して信念を修養するの外燈下靜かに古今の賢人君子と語るも可なり知己朋友と茶を煎じて清談を交へ時に高尚なる娛樂を

試むるも可なり芝居小説の類も修養の心あらば必ずしも悪しからず要するに慰安は疲勞を洗ひ希望を新しくするの道修養は暗愚を開き徳性を養ふの法人は一日も慰安なかる可らず修養なかる可らざるなり。

若し修養をもなさず夜業をも精ます漫然として閑居せんか夜は小人をして墮落せしむる時間なり無垢なる青年子女を誘惑して罪惡に陥らしむ殊に都會に於て然り娛樂は必要なれども其の種類を擇ばざれば娛樂は道樂となり道樂は墮落となりて却つて身を害ひ家を破るに至る。

道樂 人の不行狀を見て我身の不行狀になる事 (神誠)

一心とは道樂に耽る時の心じやその心で信心して見い (御理解)  
強き酒は貴き心を鈍くす (ホーマー)

酒と女とは苦難の因なり (マーシャル)

女と酒と賭博とは富を小にし貧を大にす (フランクリン)

鏡は姿を寫し酒は心を寫す (獨國俚言)

暴飲家は絶わす我生命を攻撃す (英國俚言)

人は休むことあれども時計は息むことを知らずいつしか今宵も  
十時に近からんとす活氣よく朝の床を離れしものは亦活氣よく  
夜の床に就くを要す早起早眠は福壽を増すの基と漫りに夜を更  
す人は終には健康を害せんいざ神前に一禮して夜の平安を祈り

明日の幸福を願ひて寢所に入らん。

就寢 真におかげを頂かば夢も見ぬ様になる (御理解)

家の中にも信心なれば野中に寢て居ると同然 (全)

戸締りなくとも信心厚ければ心配なし (全)

良主人は率先して寢ね率先して起きざる可らず (獨國俚言)

夜の伏戸は神の御懷なり嬉しく有難く忝なく今日を送りし人に

は此上なき樂園なり中々に華胥の譬も及ばずされど身に病ある

か病萌さんとするか心静まらざるか身に餘る望を抱くかはた心

中に疚しき所ある人は必ずや寢心地の平かならざるを覺ねん此

の時予常の信心の大切なるを熟々に思ふ常の信心手厚ければ病



氣も恐るゝに及ばず、心自ら平ぎて胸安まり、希望湧出づと雖も己の分を忘れざるに至る、心中疚しき所あるものはたゞ反省せんのみ、人は知らずとも天知る地知る吾知る、眞に恐るべきものは盜難にあらず、火難にあらずして良心の呵嘖なり。

反省 日暮れば大晦日と思へ（心を忘るな）（御理解）

改心は信心に入るの門（全）

毎夜當日の所行を反省せよ而して惡き事は努めて除き善き事は喜んで累ねよ（ヒサゴラス）

過つて改むるに憚ること勿れ（孔子）

悪人と善人との境は過を改むると改めざるとにあるのみ

善を見ては倣ひ不善を見ては改む善も不善も皆我師なり

過を掩はん爲に偽るは過を重ぬるなり（ワット）

悪人は非を飾るも善人は之を改む（ジョンソン）

智者は他人の過により己の過を正す（英國俚言）

今日改良せざる人は明日益々惡しきに向ふ（獨國俚言）

人の一生は重荷を負うて遠き路を行くが如しと教へたる人、人生

五十功なきを耻づと嘆じたる人、朝たの紅顔は空しく夕べの白骨

と悟りたる人、この様々なる人生を或は五十年と教へ或は七十年

と呼べど要するに今日一日の意義に外ならず、今日は則ち一生の

縮寫なり、今日の信心完きを得ば一生も亦全からん、今日樂しむを

268  
192

得<sup>ゆ</sup>ば一<sup>いつ</sup>生<sup>せい</sup>も亦<sup>また</sup>樂<sup>の</sup>しからん。今<sup>こん</sup>日<sup>にち</sup>省<sup>かへり</sup>みて差<sup>は</sup>づる所<sup>ところ</sup>なき人<sup>ひと</sup>は、明<sup>あ</sup>日<sup>にち</sup>も安<sup>やす</sup>らかに一<sup>いつ</sup>生<sup>せい</sup>の末<sup>まつ</sup>期<sup>き</sup>も亦<sup>また</sup>安<sup>やす</sup>らかならん。

廿六

茲<sup>こゝ</sup>に篇<sup>へん</sup>を結<sup>むす</sup>ぶにあたり佐藤文學士高橋早學士兩君の懇切なる示導に俟<sup>まち</sup>つ處多かりしことを告白し深く感謝の意を表す

備中北部聯合會創立の日

著者謹識

得ば一生も亦樂しからん今日省みて悉く所なき人は明日も安らかに一生の末期も亦安らかならん

茲に篇を結ぶにあたり佐藤文學士高橋早學士両君の懇切なる示尊に俟つ處多かりしことを告白し深に感謝の意を表す

備中北部聯合會創立の日 著者 謹 啓

明治四十四年七月二十二日印刷

明治四十四年四月二十六日發行

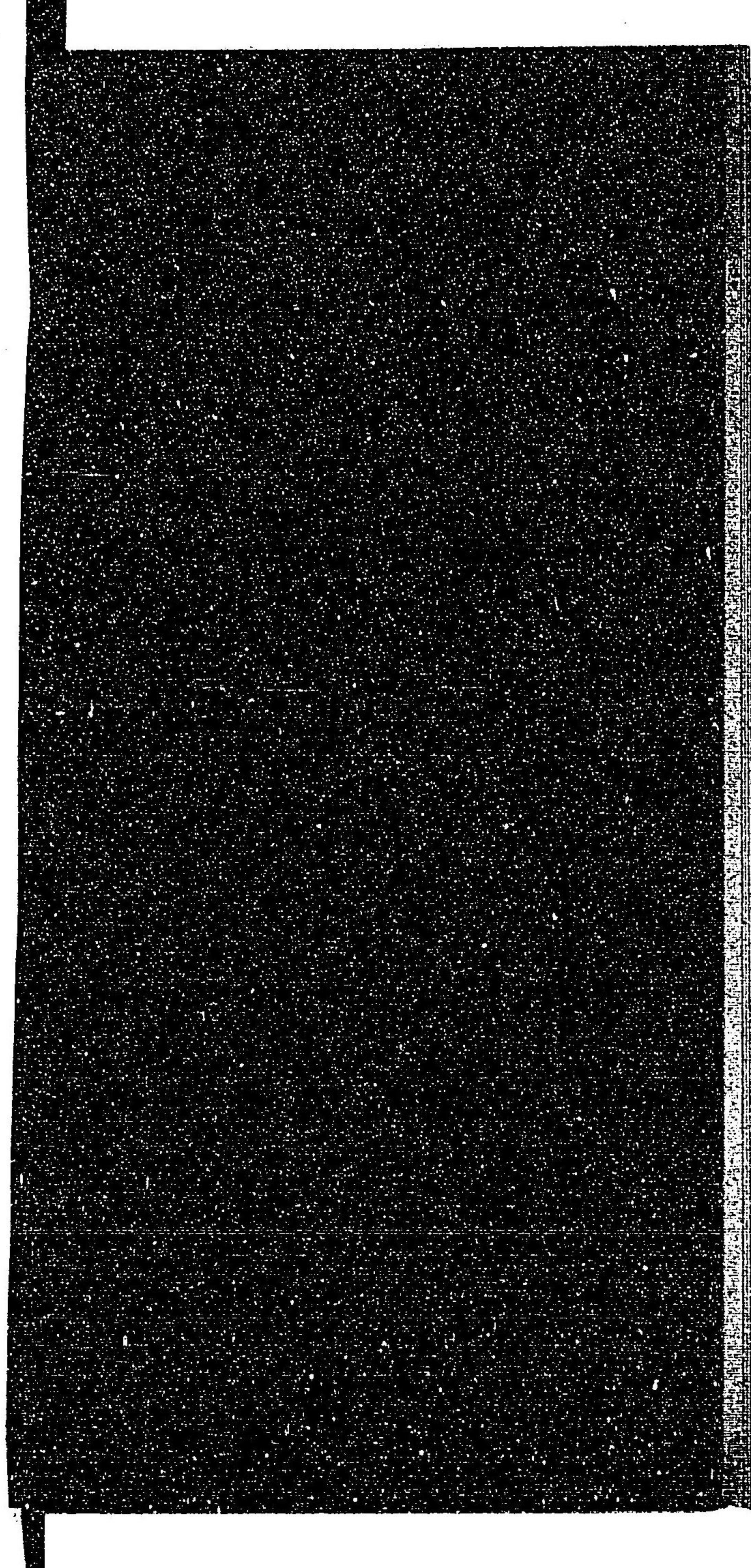
版權所有

著者 岡山縣川上郡日里村黒忠三千二百四十九番地 山下鏡影

發行者 岡山縣淺口郡三和村大谷三百二十五番地 飯塚辰太郎

印刷者 岡山縣淺口郡玉島町大字玉島四百拾七番地 守分清三郎

發行所 岡山縣淺口郡三和村大谷三百二十五番地 大教新報社



014043-000-0

特20-69

今日の教訓 夕の巻

山下 鏡影/著

M44

ABB-0297

